

平成26年度 大学・地域連携事業計画

1 事業実施方針

持続可能性あるまちづくり、歴史に学びながら未来を切り拓くまちづくりを進める地域と大学の取組みを支援する。

平成26年度は、大学の持つシーズと地域のニーズのマッチングを図っていくために、地域課題の解決や地域と大学の情報交流の活性化など大学と地域の双方が共に発展できることをめざす事業を展開する。なお、平成26年度は、担当大学に加えて、副担当自治体として大津市が事業の企画・運営に参画する。

2 主な取組み

(1) 大学地域連携課題解決支援事業（継続、改編）

地域の課題に関する大学と地域の協働による取組等に対して助成を行い、その成果を大学と地域が共有することで、地域や大学教育等の活性化に寄与することを目指す。さらに、取組成果を共有する場である成果報告会を「大学地域交流フェスタ」として開催する。

(事業概要等)

- ・地域におけるさまざまな課題の解決に向け、教職員、学生と地域の方々が取り組む活動や地域交流プロジェクトに対して、活動助成を行うとともに優れた活動成果に対して表彰を行う。本年度は、大学の教職員や学生がゼミナールや自主的に地域の中で取り組む教育研究活動、地域活動、地域交流プロジェクトも助成対象に含めることとし、当コンソーシアム全体として地域課題対応への取組の充実を図る。
- ・採択件数は12件程度とする。助成対象となる活動エリアは県内全域とするが、会員自治体地域における取組、活動に対しては、優先枠を設定する。

(2) 大学地域連携ネットワーク事業（継続）

地域を知り、地域の魅力を再発見するため、滋賀県におけるさまざまな地域資源の発掘と情報発信に向けて、大学と地域が連携・協働して取り組む。平成26年度は、平成25年度に連携協定を締結した滋賀県博物館協議会と密接な連携を図り、地域や大学における美術館・博物館の利用促進に関する取組み等を進める。

(3) その他

会員自治体に対して、県内の多様な大学とのさらなる交流を促進するため、各大学（特に市域外にあり、これまで連携実績が少ない大学）の知的資源、シーズ等の理解につながる取組を企画・検討する。

3 事業予算案

大学地域連携課題解決支援事業	170万円
内訳	：助成金 150万円（会員自治体優先枠150千円×6、その他100千円×6）
	事務費 20万円（印刷費、顕彰経費、その他事務経費）

以上

平成26年度 学生支援事業計画

(事業計画概要)

1. 平成26年度学生支援事業（継続事業）計画について

学生支援事業計画は、学生支援事業委員会で審議し、担当者会議で実施計画を立案する。

- ① 基本的に過去4年間の事業を踏襲することとし、次の3項目を目的とした1泊2日の宿泊研修等を中心とした事業を計画する。
 - ア、地域の人々と交流を通して地域を理解する。
 - イ、ボランティア活動を通じて社会について学ぶ。
 - ウ、学生が大学の垣根を越えて交流・学習する。
- ② 滋賀の魅力再発見（歴史や自然以外の魅力を含む）や学生主導による学生交流企画の提案（外国人留学生との交流を含む）を行う。
- ③平成25年度実施した「滋賀・びわ湖ブランド展」のコンセプトを踏襲し、琵琶湖だけではなく滋賀の奥深い魅力を発信することにより、滋賀の地域ブランド確立、向上に貢献する取り組みを学生主体で行う。 **新規企画**
- ④大学地域連携事業と連携し、大学地域交流フェスタ等において学生支援事業の成果報告を行う。

2. 平成26年度学生支援事業の進め方について

上記の通り、平成26年度は新規企画の立ち上げを行いたい。1泊2日研修と新規企画を同時進行で進め、それぞれの取り組みの質を維持、高めるためには、これまでと同様の規模で1泊2日研修を実施するのは難しい。そのため、学生支援事業に関わる学生は従来通り、各大学、短期大学から5名程度選出し、選出された学生の中で1泊2日研修に参加する学生と新規企画に参加する学生の2グループに分けて活動することとする。

また、過年度の課題を踏まえ、学生支援事業における日本人学生と外国人留学生の継続的な交流の実現を図る。

3. 新規企画について

(1) 企画案

滋賀県PR冊子の企画・編集・発行およびWeb公開

(2) 目的

滋賀県内の大学に通う学生が大学の垣根を越えて、滋賀県の魅力を伝える冊子の作成に取り組む過程で、様々な学びと成長が期待できる。また、冊子およびWebで取り組みを発信することで、学生の視点から見た滋賀県の魅力を社会に発信することができる。さらに環びわ湖大学・地域コンソーシアムの取り組みを社会に認知してもらう契機としたい。

(3) 備考

冊子の掲載内容等は参加学生主体の会議にて決定する。

4. 平成26年度学生支援事業予算（案）について

上記1.③の計画を実施するにあたり、過年度実施している「学生と地域住民との交流企画」および「1泊2日研修の実施」の予算を縮小し、その分を新規企画の予算に充てる。

①学生が地域理解を深めて地域住民や学生間の交流ができる企画の実施 1,550,000 円

予算単位	予算額（平成26年度）	予算額（平成25年度）
会議・広報等の開催経費 （学生旅費・調整費、広報費ポスター等）	300,000 円	300,000 円
学生と地域住民との交流企画	150,000 円	200,000 円
1泊2日研修の実施	1,100,000 円	1,500,000 円

②学生が地域理解を深めて学んだことを滋賀県内外に発信することで、地域貢献に繋がることのできる企画の実施（1.③の内容） 450,000 円

予算単位	予算額（平成26年度）
広報誌作成のための勉強会講師招聘	50,000 円
会議・現地調査等の実施経費	100,000 円
冊子作成費用（制作費・印刷費等）	300,000 円

5. 今後の進め方

4月中旬に学生支援事業委員会を開催し、年間の計画を確定する。事業委員会を経て、4月下旬に学生支援事業参加学生の選出を行う。5月に学生支援事業担当者会議を開催し、年間計画に基づき、計画の具体化を図る。

以上

平成26年度 高大連携事業計画

環びわ湖大学・地域コンソーシアム高大連携事業委員会では、平成26年度以下の企画を予定している。

1. 滋賀県公立学校教員10年経験者研修への講師派遣と会場提供について

滋賀県総合教育センターで実施する滋賀県公立学校教員10年経験者研修の講座に講師派遣と会場提供を行う。

平成25年度は、1講座のみを実施したが、平成26年度は、事業委員会構成大学において講座を開設し、講座数を増加する予定（現在調整中）。

予算 200,000円

2. 滋賀県高等学校進路指導研究会(高進研)への講師派遣について

滋賀県高等学校進路指導研究会の総会における講演会や、就職部会、進学部会、定通部会及び特別支援部会の4部会から要請があれば、講師派遣を行う。

予算 100,000円

以上

平成26年度 就職支援事業計画

1. 合同企業説明会

滋賀県内の優良企業・事業所を広く学生に認知してもらい、より多くのマッチングを実現するために「合同企業説明会」を実施する。実施にあたっては、学生にとって効果的なものを目指し、2013年度同様、滋賀県（労働局）、大津市、長浜市、甲賀市、各経済団体等と連携をとりながら、県・市・経済団体等が開催する合同企業説明会に共催の形で取り組むこととしたい。

【開催概要】

- ◆対象学生：4回生および短大2回生
- ◆開催時期・曜日：未定（※行政機関、経済団体と調整の上決定）
- ◆開催場所：湖南地域、湖東地域、湖北地域で、行政機関、経済団体が指定する場所
- ◆参加企業：行政機関、経済団体と調整の上、決定する。

【概算経費】

- ◆共催費（各行政機関、経済団体の要望に応じて支出する）350,000 円
(上限 100,000 円×3 会場、上限 50,000 円×1 会場)

※市開催：湖北 1 回、湖東 2 回、湖南 1 回を想定

県（労働局）開催：湖南 2 回を想定

経済団体（留学生対象）開催：湖南 2 回を想定

<合計 8回>

合計 350,000 円

2. 滋賀県企業人事担当者と大学就職担当者との情報交換会

年々変化している昨今の就職環境を踏まえ、滋賀県内の経済 2 団体（滋賀経済産業協会、滋賀県中小企業団体中央会）と連携し、企業の人事担当者と大学の就職・進路担当者が交流・意見交換を行い、現状を捕まえた学生の就職支援に繋げる。本事業を実施することにより、経済団体及び企業と大学間の距離が縮まり、マッチングの実現へとつなげることを目的とする。

実施にあたっては、加盟 13 大学の就職担当者と経済団体加盟企業の人事担当者が名刺交換、意見・情報交換を行い、意見や情報を共有し就職支援に繋げ、地元企業への就職を図る。

開催概要は以下のとおり。

【開催概要】

- ◆対象：滋賀県経済団体（滋賀経済産業協会、滋賀県中小企業団体中央会）加盟企業と環びわ湖大学・地域コンソーシアム加盟大学の就職・進路担当者

- ◆参加企業：約 50 社（経済団体と調整）
- ◆実施方法：滋賀県経済団体と実施方法を調整

【概算経費】

- ◆会場費 100,000 円 **合計 100,000 円**

- ◆開催時期：滋賀県経済団体と日程調整 <滋賀経済産業協会 2回、滋賀県中小企業団体中央会 1回>

- ◆開催場所：滋賀県経済団体と会場調整

※滋賀県経済団体（滋賀経済産業協会、滋賀県中小企業団体中央会）と連携し共同開催とする。経費については、経済団体と調整する。

3. 大学就職担当者間の情報交換会・研修会

近年、多様化する就職活動において、学生への就職支援を行っていく上で、担当スタッフの研鑽は必要不可欠となってきている。また、学生のニーズ、企業のニーズが多様化している昨今では、大学間における情報交換は貴重な支援策のひとつとなっている。このことから、本事業では加盟大学の就職担当者が一堂に集まり、外部から講師を招き、話題提供に基づき意見交換を行う。このことにより、新たな知識の蓄積、他大学における先駆的な支援施策等を知り、多様化する学生へのキャリア支援に役立てるものとする。

開催概要は以下のとおり。

【開催概要】	
◆ 対象	加盟 13 大学の就職担当者
◆ 開催時期	9 月頃の半日（午後）
◆ 開催場所	湖北地域を会場としたい。 (2010 年度は湖南地域、2011 年度は湖北地域、2012 年度は湖南地域、 2013 年度は湖南地域で開催した。)
◆ 構成	3 部制で開催する。 ◇第 1 部：外部講師（産官関係者など）による基調講演（話題提供）と意見交換会 ◇第 2 部：加盟大学からの課題提案に基づいた意見交換会 ◇第 3 部：意見交換・親睦会
【概算経費】	
◆ 講師謝礼（交通費含む）	50,000 円
合計	50,000 円

4. 学生を対象とした就職活動に活かす企業訪問会

2012 年度は、加盟大学に在籍する低年次生を中心に早い段階から将来に対するビジョンや働くというイメージを持たせることを目的とした 1 泊 2 日で合同合宿（企業訪問 2 社、OBOG 交流会、グループワーク等）を実施した。2013 年度は、合宿時に学生の要望が多かった企業訪問（「BtoB 企業」「BtoC 企業」）に特化した企業訪問会を滋賀県中小企業団体中央会と協力し開催した。企業訪問会を通じて、学生はインターネット等では知り得ない生きた情報の収集ができ、且つその後の就職活動（業界研究、職業研究）に活かすことができた。

2014 年度は、2013 年度の事業を継承し、滋賀県中小企業団体中央会と協力し企業訪問会を実施する。この事業を通じて、様々な地元企業を知ることにより、企業の選択肢を広げ、更に企業訪問後、OBOG との交流を通じて「就職することとは」「働くこととは」どういうことかを考える場とし、以降の学生生活、就職活動に活かせる事業としたい。

開催概要は以下のとおり。

【開催概要】

- ◆構成案：企業訪問（2社）後、OBOGとの交流会を実施
 - ・企業訪問（午前1社、午後1社）
 - ・OBOG交流（※交流会場所は未定）
 - ・移動手段：バスを利用
- ◆定員：各30名
- ◆協力：滋賀県中小企業団体中央会の関係企業
- ◆対象学生：3回生以下
- ◆開催時期：未定（※実施時期は滋賀県中小企業団体中央会と相談）
- ◆開催場所：未定（※訪問企業は滋賀県中小企業団体中央会と相談）
- ◆実施回数：滋賀県中小企業団体中央会と相談（日帰り）

【概算経費】

- | | |
|----------------|-----------------|
| ◆OBOG謝礼（交通費含む） | 15,000円×4名×2回 |
| ◆会場費 | 40,000円×1会場×2回 |
| ◆交通費 | 50,000円×1台×2回 |
| ◆その他雑費 | 20,000円（手土産代含む） |

合計 320,000円

※OBOGとの交流会場は、大学施設を使用することも検討の必要あり。

5. 滋賀県との共催事業の実施

2013年度は滋賀県男女共同参画課と共催事業としてワーク・ライフ・バランスを考えた働き方についての講演会を開催した。

2014年度も滋賀県男女共同参画課との共催事業として、社会人の一歩手前である大学生を対象に、固定的性別役割分担意識にとらわれず、多様な選択肢の中から自分自身の将来のキャリアビジョンを描けるよう、学生が自らが「キャリアビジョンを描くこと」について様々な体験をし、その体験を通して気づいた内容や成果等を若年者に受け止められやすい形で広く発信する。

事業の実施概要は以下のとおり。

【事業概要】

- ◆事業名称：仕事も生活も充実！未来のわたし体験発信事業
- ◆事業概要：「学生たちが発信する『未来のわたし』」をキーワードにして、学生が自らが「キャリアビジョンを描くこと」について様々な体験をし、その体験を通して気づいた内容や成果等を若年者に受け止められやすい形で広く発信する。具体的には、
 - ・ロールモデルとの交流（企業で活躍する女性や育児に熱心な男性等へのインタビュー）、
 - ・学生と社会人等を対象としたワークショップ、
 - ・仕事と子育ての両立体験などの様々な体験など、
 をもとに、学生等のグループが若年層を対象とした効果的で多様な発信を行う。
- ◆参加人数：県内各大学から10名程度の学生を募集する。
- ◆実施方法：若年者向け啓発ハンドブックの作成、学生等により体験のリアルタイムな発信（フェイスブックなどの活用）、活動報告会の開催、知事と学生等との意見交換会の開催などを実施。なお、参加学生の募集等の具体的取り組みは、委託業者決定後に打ち合わせを行い決定する。

【概算経費】

- ◆必要経費：事業に必要な経費は、滋賀県にて準備いただくため経費は発生しない。

以上

平成26年度 単位互換事業計画

事業計画

(1) 2014年度の単位互換科目の提供

2014年度の事業計画で、次年度の受講者数の増加方策として、夏期や土曜の集中開講科目の提供、滋賀らしい科目の開発・提供及び参加大学での積極的な広報活動を、参加大学に要請してきた。

2014年度の単位互換科目（予定）は、別紙の「2014年度 開講科目一覧」のとおりである。参加大学の特徴的な科目、集中開講の科目、滋賀らしい科目などの科目の提供があり、前年度より4科目多い66科目となった。

なお、夏期や土曜の集中開講の科目、滋賀らしい科目、フィールドワークを取り入れた科目、eラーニングを取り入れた科目など、次表のとおり特徴的な科目を提供する。

科目名	開講大学	開講形態	科目の特徴
芸術と文化	滋賀大学	春学期集中	
言語と文化	滋賀大学	春学期集中	
近江とびわ湖Ⅱ	滋賀大学	秋学期	滋賀らしい科目(琵琶湖の環境)
近江とびわ湖Ⅰ	滋賀大学	春学期	滋賀らしい科目(琵琶湖の環境)
近江のくらしと文化	滋賀大学	秋学期	滋賀らしい科目(滋賀県:歴史文化等)
彦根・湖東学	滋賀大学	秋学期集中 (土曜4回)	滋賀らしい科目(彦根・湖東:市政、歴史、文化、自然等) フィールドワーク(彦根市周辺、古民家、自然遺産、多賀、佐目の風穴等)、ワークショップ
滋賀大学で環境を学ぶ	滋賀大学	秋学期	滋賀らしい科目(滋賀県・琵琶湖:環境)
地域論	滋賀医科大学	後期	滋賀らしい科目(滋賀県:地域、生活、文化) 受講生による調査と発表
びわこ環境行政論	滋賀県立大学	後期	滋賀らしい科目(琵琶湖)
滋賀の自然史	滋賀県立大学	後期	滋賀らしい科目(琵琶湖の生物)
環境を考える	滋賀短期大学	前期	フィールドワーク(びわこ博物館見学)、ワークショップ
近江学B	成安造形大学	前期	滋賀らしい科目(近江学:自然環境、芸術、歴史、民族、思想、ものづくり)
琵琶湖の民俗史	成安造形大学	後期集中	滋賀らしい科目(琵琶湖を中心とした祭礼・行事・伝承・漁法など)
滋賀論(予定)	聖泉大学	前期集中	滋賀らしい科目(滋賀県、琵琶湖:歴史、神話、産業、文化等) クルージング(琵琶湖一周)
歴史学	長浜バイオ大学	前期	滋賀らしい科目(滋賀県:歴史・風土・遺跡)
滋賀の環境	びわこ学院大学	後期	滋賀らしい科目(自然、生物、環境、生活) 博物館見学
社会人類学	龍谷大学	後期	滋賀らしい科目(大津市大萱:歴史、環境、生活)
びわ湖・滋賀学	龍谷大学	後期	滋賀らしい科目(滋賀県・琵琶湖:食文化、集水域の暮らし、農業、産業)
ODA・国際援助論 E	立命館大学	夏期集中	
経営と女性 B	立命館大学	夏期集中	

(2) 2015年度の単位互換科目の提供に向けて

2014年度に引き続き、受講者数の増加を図るため、滋賀らしい科目を開発・提供するほか、集中開講の科目の提供及び積極的なPRを行う。

別紙

【2014年度 開講科目一覧】

科目提供大学	科目番号	科目名	担当者	回生	単位互換定員	開講期間	曜日	時限
滋賀大学	01	芸術と文化	林 睦	1以上	10名程度	春学期集中		
	02	言語と文化	松丸 真大	1以上	10名程度	春学期集中		
	03	教育と文化	三輪 貴美枝	1以上	10名程度	秋学期	火	4
	04	経営学からの問い	伊藤 博之	1以上	10名程度	春学期	月	2
	05	数学的思考	内藤 雄志	1以上	10名程度	秋学期	水	3
	06	情報通信の仕組み	富田 健一	1以上	10名程度	春学期	火	5
	07	近江とびわ湖Ⅱ	近藤 學	1以上	10名程度	秋学期	火	2
	08	近江とびわ湖Ⅰ	石川 俊之	1以上	10名程度	春学期	金	4
	09	近江のくらしと文化	吉川 栄治	1以上	10名程度	秋学期	金	4
	10	滋賀大学で環境を学ぶ	藤栄 剛、梅澤 直樹、田中 勝也	1以上	10名程度	春学期	木	4
	11	彦根・湖東学	彦根市長 他	1以上	10名程度	秋学期集中		
滋賀医科大学	12	医学概論Ⅰ	室寺 義仁	1回生以上	15名	前期	木	2
	13	医学概論Ⅱ	室寺 義仁	1回生以上	15名	後期	木	2
	14	臨床心理学	小島 隆次	1回生以上	不問	前期	火	5
	15	臨床コミュニケーション学	瀧川 薫	1回生以上	30名	前期	金	3
	16	地域論	兼重 努	1回生以上	不問	後期	木	4
	17	睡眠学概論	宮崎 総一郎	1回生以上	10名	前期	金	1
	18	環境マネジメント総論(人間文化学部・人間看護学部)	奥村進 ほか	指定なし	10	前期	月	1
滋賀県立大学	19	環境マネジメント総論(環境科学部・工学部)	奥村進 ほか	指定なし	10	前期	月	2
	20	びわこ環境行政論	井手慎司 ほか	指定なし	10	後期	月	4
	21	滋賀の自然史	浜端悦治	指定なし	10	後期	月	5
	22	環境を考える	木谷 康子	1以上	若干名	前期	木	1
	23	カラコーディネート論	戸田 賀志子	1以上	若干名	前期	月	1
滋賀短期大学	24	和服構成実習	戸田 賀志子	1以上	若干名	前期	水	4
	25	生活工芸演習	戸田 賀志子	1以上	若干名	後期	金	2
	26	子どもの精神保健	早川 滋人	1以上	若干名	後期	金	2
							金	3
	27	秘書学概論	清水 たま子	1以上	若干名	前期	火	4
	28	秘書実務Ⅰ	清水 たま子	1以上	若干名	前期	金	1
	29	秘書実務Ⅱ	清水 たま子	1以上	若干名	後期	金	4
滋賀文教短期大学	30	書道Ⅰ	猪飼和喜夫	1以上	若干名	春学期	火	3
	31	書道Ⅱ	猪飼和喜夫	1以上	若干名	秋学期	火	3
成安造形大学	32	近江学B	木村 至宏	1以上	10名程度	前期	木	1
	33	琵琶湖の民俗史	木村 至宏	1以上	10名程度	後期集中		
	34	西洋美術史A	千速 敏男	1以上	10名程度	前期	火	1
	35	西洋美術史B	千速 敏男	1以上	10名程度	後期	火	1
	36	デザイン史概説A	島先 京一	1以上	10名程度	前期	火	2
	37	デザイン史概説B	島先 京一	1以上	10名程度	後期	火	2
	38	滋賀論						
聖泉大学	39	心理学概論	新美 秀和			前期	月	2
	40	現代人と健康	炭谷 将史			後期	水	2
長浜バイオ大学	41	エッセンシャル生物学Ⅰ	蔡 晃植	1以上	5名以内	前期	月	3
	42	生物学基礎	岩本 昌子	1以上	5名以内	前期	月	2
	43	歴史学	水本 邦彦	1以上	5名以内	前期	月	2
	44	遺伝子工学	大島 淳	2以上	5名以内	後期	金	2
	45	日本語表現Ⅰ	神田 卓朗	1	5名程度	前期	月	4
びわこ学院大学	46	日本語表現Ⅱ	神田 卓朗	1	5名程度	後期	月	3
	47	ビジネスコミュニケーション	牧田 衛活	1	5名程度	後期	木	2
びわこ成蹊スポーツ大学	48	滋賀の環境	佐々木 和之	1	5名程度	後期	火	1
	49	衛生・公衆衛生学	金森 雅夫	1	若干名	前期	火	2
	50	スポーツバイオメカニクス	高橋 佳三	1	若干名	後期	火	2
龍谷大学	51	生活の中の数学	國府 宏枝/山岸 義和	指定なし	15名	前期	月	1
	52	教養教育科目特別講義A「里山学入門」	宮浦 富保 他	指定なし	10名	前期	月	3
	53	環境と人間A	竺 文彦	2以上	20名	前期	月	4
	54	ジャーナリズム論Ⅰ	李 相哲	2以上	不問	前期	火	2
	55	社会保険論	伏見 恵文	3以上	5名	前期	火	4
	56	社会人類学	徐 光輝	2以上	10名	後期	月	3
	57	まちおこし論	笠井 賢紀	2以上	不問	後期	火	2
	58	びわ湖・滋賀学	柏尾 珠紀	2以上	不問	後期	木	1
	59	ODA・国際援助論 E	向井 一朗	3以上	10名程度	夏期集中		
立命館大学	60	経営と女性 B	安田 三江子・渡辺 峻	2以上	10名程度	夏期集中		
	61	キャリア開発 B	渡辺 峻	2以上	10名程度	前期	木	4
	62	科学と技術の歴史 TB	雀部 晶	1以上	20名程度	前期	火	3
	63	情報技術と社会 TA	服部 文夫	1以上	20名程度	前期	水	3
	64	科学・技術と社会 C	中村 真悟	1以上	10名程度	後期	金	5
	65	生命科学と倫理 MA	岡田 豊	1以上	10名程度	前期	月	5
	66	スポーツ栄養学 V	海老 久美子	2以上	10名程度	前期	木	3

平成26年度 広報事業計画

1. 事業計画

ホームページ、リーフレット作成を継続して行うと共に、諸事業を推進するための広報事業を行う。また、成果発表の場としてのシンポジウムやフォーラムの広報支援や、加盟大学・短期大学の学生募集への貢献など適切な広報活動を展開する。

(1) ホームページの管理・運営

諸事業の展開を支援する広報事業として情報提供を行う。

また、当コンソーシアム事業の紹介や、滋賀県内の大学・短期大学の魅力をアピール発信することに取り組む。

(2) 広報資料の作成・配布

リーフレットの内容を改訂し、大学、自治体、経済界、NPO団体、全国コンソーシアム組織、県内高校、近隣府県の高校へ配布する。また、県内外での催し物などの機会を活用して、コンソーシアムのPRにも活用する。

(3) オリジナルロゴの活用

コンソーシアムのロゴを各種広報物やホームページに掲載し、コンソーシアムの浸透を図る。

(4) 事業委員会、大学・短期大学と連携した広報活動

大学・短期大学、各事業委員会と連携しながら広報活動を進める。また、行政の広報媒体の活用やパブリシティに力を入れるなど積極的な広報活動を行う。

2. 予算

・ホームページの管理・運営	150,000円
・広報資料の作成・配布	450,000円
(計)	600,000円

平成26年度 滋賀県からの受託予定事業計画

1. 大学連携政策研究事業

(1) 趣旨

過去に経験のない人口減少や少子高齢化が進む中、県政においては、様々な課題への直面が予想され、未来を先取りした政策研究を行う必要がある。一方、大学では地域再生の核となる大学づくりが進められており、社会変革のエンジンとしての期待が高まっている。環びわ湖大学・地域コンソーシアムとの協働により、そのシンクタンク機能を活かした政策研究を行う。

(2) 事業内容

住みよい滋賀の実現には、産業の安定的な成長発展のもと堅実な経済基盤を築くことが重要である。そのため滋賀県経済の目指すべき方向について、産学官で取り組むべき施策について研究し、たくましい滋賀の産業経済の実現に資することを目指す。

(3) 委託内容

滋賀の成長戦略を牽引する産学官連携政策に関する調査を実施し、具体的なプロジェクト等を提案する報告書をまとめる。

《事業例》産業分野

農商工連携、建設産業、内需型産業、ニッチトップ企業育成、大学発ベンチャー産業、健康産業、まちづくり産業、クリエイティブ産業など

(4) 事業予算（予定） 130万円(委託費)

2. 県内大学と地域住民が連携した「観光交流による地域振興」モデル検討事業

(1) 趣旨

県内大学と地域住民が連携し、各地域に眠る様々な地域資源を発掘し、「観光資源」として磨き上げ、その魅力を活かした来訪の促進を通じて「観光交流」の促進をはかり、「観光・三方よし」が各地域で進むことを目指す。

(2) 事業内容

今後の取り組みのモデルとなるような事例を作り出す。

《事業例》

- ・地域で伝承された生活文化を、住民自身が子供時代の思い出とともに来訪者に語りながら体験してもらうプログラムの開発。
- ・地域で守り続けた文化財を地域住民が生活体験とともに案内する、など。

(3) 事業予算（予定） 163万円（委託費）

■なお、上記事業とは別にびわこビターズビューローを事業主体として学生による「ビワイチ」旅のコンテスト事業を実施する。事業予算は33万円（予定）。

以上